

1.8 金物使用の有無

- ・軸組接合部に金物（・使用されている ・ほとんど使用されていない）

1.9 耐久性にかかる調査

- ・外周壁の構法（・大壁 ・真壁）
- ・大壁外周壁の材料（・モルタル塗 ・サイディング等 ・下見板張）
- ・真壁外周壁の劣化状

<ul style="list-style-type: none"> ・外周の柱または土台の半分以上に蟻害、腐朽がある。 ・外周の柱または土台の局所に蟻害、腐朽がある。 ・特に異常はない。

- ・耐久性の高い仕様か

<ul style="list-style-type: none"> ・金融公庫高耐久仕様 ・金融公庫高規格仕様 ・それに準ずる仕様 ・特になし
--

1.10 建築物内部の構法

- ・建築物内部（・大壁構法 ・真壁構法）

2. 損傷状況調査

2.1 最大層間変形角推定のための調査

躯体	残留変形				1/120rad.	1/90rad.	1/60rad.	1/40rad.
	筋交い					はらみ	座屈したものがある	複数の筋交いが座屈
外装材	外壁	サイディング張り		釘の浮き	開口部の隅角部に割れ	開口部の隅角部の割れ拡大、一部に浮きが見られる	開口部隅角部の割れが上下に通るものがある	開口部隅角部の割れ上下に通るものが複数
		モルタル塗り	開口部隅角部に割れ	開口部隅角部の割れ拡大	開口部隅角部以外にも割れ	開口部隅角部以外の割れ拡大	外壁平一般部分に割れ	外壁平一般部分に割れ複数
	開口部等			サッシガasketに部分的はずれ	サッシガasket外れ	サッシのクレセントが損傷	サッシのクレセントが破壊、ガラス破壊	サッシのクレセントが破壊、ガラス破壊が複数
内装材	内壁	クロス貼り	隅角部にしわが生じる	隅角部に破れ、中間部しわが生じる	隅角部の破れが上下に通る、中間部に破れが見られる	壁の中間部に破れ拡大	石膏ボード目地の複数が破れ	石膏ボード目地の大部分が破れ
		真壁		柱と壁の間にずれの跡	柱と壁の間に隙間が生じる	柱と壁の隙間が3~5mm	柱と壁の隙間5mm以上	柱と壁の隙間5mm以上が複数箇所
	開口部等					障子破れ		

2.2 各部位の調査

1 地盤

●地盤

- 小さなひび割れが生じている
- 多数のひび割れが生じている
- 崩壊している

●不同沈下

- 発生している

●擁壁

- 被害が生じている

●液状化

- 発生している

2 基礎

●基礎

- 破損している
- 破断している
- 移動している
- 流失している
- 転倒している

●外周基礎

- 幅 0.3mm 以上で長さ 200mm 未満のひび割れが 2～5 箇所生じている
- 局部的な破壊や仕上げモルタル剥離・脱落が生じている
- ひび割れが著しく土台と遊離し、土台より上部構造を支える役目を果たさなくなっているところが 1～2 箇所生じている
- 上部構造を支えきれない状態になっている

●アンカーボルト

- アンカーボルトの抜け出しがある
- アンカーボルトまたはナットがない

3 床組

●不陸

- 若干の不陸が見られる
- 著しい不陸が見られる
- 全ての床板に著しい不陸が見られる

●土台・束等

- 束が束石から僅かにずれている
- 束が束石から数cmずれている
- 土台が基礎から僅かにずれている
- 柱が土台からわずかにずれている
- 束が束石から脱落している
- 土台が基礎から著しくずれている
- 柱が土台から著しくずれている
- 全ての土台、柱、束が基礎、束石等から脱落し、大引、根太の大部分が落下している
- 腐朽: 蟻害がある

●床板

- 床組と壁の間にわずかなずれが生じている

- 床板の継目に隙間が生じている
- 床板にずれが生じている
- 床板が折れている

●浴槽・便器

- 浴槽、便器が数cmずれている
- 浴槽、便器が著しくずれている

4 軸組

●軸組材

- 柱、梁等の軸組材に割れが見られる
- 柱、梁等の軸組材に断面欠損が見られる
- 柱、梁組の軸組材に折損が見られる

●柱・梁仕口

- 柱と壁の仕口にわずかなずれが生じている
- 一部の柱と梁の仕口にめり込み等の損傷が見られる
- 柱と梁の仕口にずれが生じ、柱に割れが生じている
- 大部分の柱、梁の仕口がずれたり、柱、梁に割れが生じている

●柱・梁の変形

- 柱、梁が若干たわんでいる
- 柱、梁がたわんでいる
- 全ての柱が折損したり、土台からはずれたりしている
- 柱脚の腐朽が見られる

●天井面

- 天井面に若干の不陸が見られる
- 天井面に不陸が見られる
- 天井面に著しい不陸が見られる
- 天井面に歪が見られる
- 天井板がずれたり、一部脱落が見られる
- 天井板が脱落している

●塗天井

- 塗天井には亀裂が生じている
- 塗天井に剥離が見られる

●階段

- 階段がずれている
- 階段がはずれている

5 耐力壁

●変形

- ほとんどの耐力壁に残留変形が生じている
- 破壊には至っていないが、著しい残留変形(約 1/10 の層間変形角=引き起こしが可能)が生じている
- 引き起こしが不可能な程の残留変形(1/10 を超える層間変形角)が生じている
- 1階部分が完全に崩壊している

●筋かい

- 壁面にわずかなずれが生じている。他は異常がない
- 筋かいは健全

- 筋かいを設けた壁では、筋かい仕口のずれが生じている
- 筋かいを設けた壁では、筋かい仕口のずれが生じている
- 筋かいを設けた壁では、筋かいが破損したり、柱、土台からはずれている
- 複合座屈が生じている

●ボード壁

- ボード壁では、ボード隅肉部にひび割れが生じ、一部の釘がめり込んでいる
- ボード壁では、釘頭のボードへのめり込み、ボードの相互間に著しいずれが生じる
- ボード壁では、ボードが面外に湾曲したり、下地材から脱落している

●土塗壁

- 土塗壁では、一部にわずかなひび割れが生じている
- 土塗壁では、そのほとんどにひび割れが生じている
- ほとんどの土塗壁で、塗土が小舞竹から剥落している

●貫

- 貫が折損している

●耐力壁の面材

- 破損が見られる

6仕上材

●モルタル塗等

- モルタル塗、タイル張り及びしっくい塗仕上の壁では、開口部の隅角部廻りにわずかなひび割れが生じている
- モルタル塗、タイル張り及びしっくい塗仕上の壁では、壁面の各所で仕上の脱落が生じている
- モルタル塗、タイル張り及びしっくい塗仕上の壁では、仕上の大半が剥離または脱落が生じている
- 全ての仕上材が脱落している

●ボード類

- 合板の下地に吹抜けを施したものやサイディングボードといったボード類では、目地部にわずかなずれが生じている
- ボード類では、一部のボードの仕上面の目地部にひび割れやずれが生じている
- ボード類ではその大半において仕上面での目地部に著しいずれ、面材釘打部の部分的目地部に著しいずれ、面材釘打部の部分的な浮き上がり、面材隅角部の破損が生じている
- ボード類では、その大部分において釘の浮き上がりが見られ、中には脱落したものも見られる

●建具

- アルミサッシの鍵が破損したり、ビードがはずれたりあるいは開閉が不能になっている
- 木製サッシと壁面との間に隙間が生じている

- アルミサッシのガラスが破損している
- アルミサッシが枠ごと外れ、破損している
- アルミドア破損
- 木製サッシ破損
- 木製建具破損
- 全ての建具、サッシが破損している

●内壁

- 内壁周辺部に隙間が生じている
- 内壁合板にずれが生じている
- 内壁合板に剥離、浮きが見られる
- 内壁合板に剥離、脱落の破損が見られる

●外壁・浴室・トイレのタイル等

- 外壁、浴室、トイレのタイルの目地に亀裂が生じている
- 外壁、浴室、トイレのタイルが剥離を生じている
- クロスが破れている
- 外壁、浴室、トイレのタイルが剥落している
- 外壁に腐食・蟻害が見られる

7屋根

●不陸

- 不陸が見られる

●小屋組

- 小屋組の一部に破損が見られる
- 小屋組の損傷が著しく、葺材の大部分が損傷を受けている
- 下地、小屋根に腐朽が見られる

●瓦

- 棟瓦(かんむり瓦、のし瓦)の一部がずれ、破損が生じている。それ以外の瓦の破損はない
- 棟瓦のずれ、破損、落下が著しい。それ以外の瓦の破損は少ない。
- 棟瓦が全面的にずれ、破損あるいは落下している。その他の瓦もずれが著しい
- 瓦がほぼ全面にずれ、破損あるいは落下している

●葺材

- 葺材が金属板の場合、ジョイント部にはがれ等の損傷が見られる。

●棟

- 破壊が見られる

3. 建物の被災度区分（該当箇所に〇印をつける）

部位	損傷項目	損傷算定式・被災度ランク					被災度
基礎 (外周基礎)	損傷率	$\frac{\text{損傷基礎長 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m (個)})}{\text{外周基礎長 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m (個)})} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		15%未満 <input type="checkbox"/> I	15~30% <input type="checkbox"/> II	30~65% <input type="checkbox"/> III	65~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
床組 (1階床組)	損傷率	$\frac{\text{損傷床面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \text{ (坪)})}{\text{1階床面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \text{ (坪)})} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		10%未満 <input type="checkbox"/> I	10~30% <input type="checkbox"/> II	30~60% <input type="checkbox"/> III	60~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
軸組 (1階柱)	損傷率	$\frac{\text{損傷柱 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ 本})}{\text{1階柱本数 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ 本})} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		10%未満 <input type="checkbox"/> I	10~30% <input type="checkbox"/> II	30~60% <input type="checkbox"/> III	60~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
耐力壁 (1階耐力壁)	損傷率	$\frac{\text{損傷耐力壁長 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m})}{\text{1階耐力壁長 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m})} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		10%未満 <input type="checkbox"/> I	10~30% <input type="checkbox"/> II	30~60% <input type="checkbox"/> III	60~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
仕上材 (外壁仕上面)	損傷率	$\frac{\text{損傷壁面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2)}{\text{外壁面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2)} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		15%未満 <input type="checkbox"/> I	15~40% <input type="checkbox"/> II	40~65% <input type="checkbox"/> III	65~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
屋根 (最上階の屋根)	損傷率	$\frac{\text{損傷屋根面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2)}{\text{屋根面積 (\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2)} \times 100 = (\underline{\hspace{2cm}} \%)$					
		15%未満 <input type="checkbox"/> I	15~40% <input type="checkbox"/> II	40~65% <input type="checkbox"/> III	65~85% <input type="checkbox"/> IV	85%以上 <input type="checkbox"/> V	
	損傷状況	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> II	<input type="checkbox"/> III	<input type="checkbox"/> IV	<input type="checkbox"/> V	
総合被災度							

被災度区分判定調査は、損傷率と損傷状況という2つの観点から実施する。調査結果は部位ごとに5つの被災度（軽微、小破、中破、大破、破壊）に区分される。損傷率から決まるランクと損傷状況から決まるランクが異なる場合は、被災度の大きい方のランクを当該部位の被災度とする。全部位の被災度の平均値をもって建築物の被災度とする。

但し、基礎、軸組、耐力壁のいずれかの一つでも被災度がIV（大破）以上の場合は、建築物の被災度はIV（大破）以上とする。

4. 気づいた点

公表された震度								
I	II	III	IV	V弱	V強	VI弱	VI強	VII

5. 被災度区分による復旧の要否の判定

復旧の要否は下表により決定する。

補強等の要否

地震動の強さ (JMA 震度階)	被災度			
	軽微	小破	中破	大破 破壊
V弱以下	△	×	×	×
V強	○	△	×	×
VI弱	○	○	△	×
VI強以上	○	○	○	△

○印：補修により復旧するもの

△印：補修または補強により復旧するもの（復旧計画策定に関わる調査の結果に基づき詳細検討が必要）

×印：補強により復旧する、または取り壊すもの（復旧計画策定に関わる調査の結果に基づき詳細検討が必要）